

第5回吹田市市民自治推進委員会 会議録

1 日時

令和4年(2022年)11月14日(月)午後3時30分から午後4時まで

2 場所

吹田市文化会館(メイシアター) 集会室

3 出席者

(1) 委員

片上 孝洋(委員長)、梶原 晶(副委員長)、奥谷 義信、中川 玲夢、中野 里美

(2) 事務局

市民自治推進室 高島室長、田家参事、加樂主幹、河野主査

4 傍聴者

0名

5 議題

(1) シンポジウムを振り返って

(2) その他

6 議事の要旨

別紙「議事のまとめ」のとおり

7 次回の予定

(1) 日時 令和5年2月21日(火)午後6時から午後7時30分まで

(2) 場所 市役所 高層棟4階 特別会議室

議事のまとめ

発言者	主な内容
委員長	それでは委員会を開会いたします。今日のシンポジウムを振り返って、委員の皆様からご意見ご感想をお聞かせいただきたいと思います。ご意見ご感想を次回のこのシンポジウムの開催の参考にさせていただきたいと思っています。
A委員	正直言って、シンポジウムの内容は難しかった。しかし、その中で、特にいいと思ったことは、パブリックコメントに関することで、多くの人から意見を出してもらうためのツールとして、DXの活用は有効だと思いました。次年度以降の行政の取組に期待したいと思います。
B委員	今日のシンポジウムが、今後の吹田市のDX化を考えるきっかけになるのはすごくいいことだと思いました。
C委員	DX推進をしていくことで、人と人との繋がりが希薄化しないかと感じました。また、インターネットが苦手な方を除外してはいけない。全員が参画できるような仕組みを模索しないといけないと思いました。
副委員長	ICTの利便性は十分わかりました。メタバースは、相手との距離が離れている場合や物理的に参加が難しい方には、疑似的に同じ空間を体験できるので、意義はあると思いました。しかし、改めて、対面の重要性を再認識しました。
委員長	現時点で吹田市がICTを使った行政の取組をしているのか、また、将来像を示した上で、現時点でどこまで進んでいるのかを説明した方が、市民にはわかりやすかったと思います。問題意識が高い方もシンポジウムに来られるので、次回以降のシンポジウムのテーマや組み立てについて考えていただければと思いました。
A委員	行政としても、DXを進める前にスマートフォンの有効性を含めて、きちっと行政主導でやるべきじゃないのかと思います。そうしないと、例えばオレオレ詐欺じゃないですけども、いろんなものに引っかかりやすい。次の施策、将来5年、10年先の計画を示さないといけないと思います。
委員長	ありがとうございました。次回の開催日程につきまして、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	今回は、来年の1月下旬から2月中旬までの間で、開催することを考えております。議題は、昨年度いただきました自治基本条例の見直しに関する意見書の市への要望事項について、取組状況の報告等をさせていただきたいと思います。あわせて本日のシンポジウムのアンケート結果についてもお示しさせていただきます。 開催日は後日調整させていただきます。
委員長	それでは本日の委員会はこれで閉会いたします。お疲れ様でした。

順に、A委員、B委員、C委員と表記しています（委員長、副委員長を除きます）。